



カケハシ・プロジェクト（派遣プログラム）の記録

対象：高校生派遣（米国）

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」として、米国へ日本の高校生および引率者計 25 名が派遣され、日本の政治、経済、社会、文化、歴史に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、2020 年 1 月 25 日～2 月 1 日の日程でプログラムを実施しました。

一行は、学校交流で日本の魅力紹介プレゼンテーション及び実演を行い、視察先では米国や日米両国の関係について理解を深めました。プログラム中、各々の関心事項や体験について SNS を通じて積極的に対外発信を行いました。また、帰国前の報告会では、訪米経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）についてグループ毎に発表しました。

【参加団体・人数】

計 25 名

(内訳)

愛知県立旭丘高等学校	3 名
愛知県立半田高等学校	2 名
愛知県立豊田西高等学校	2 名
愛知県立時習館高等学校	3 名
愛知県立岡崎高等学校	3 名
愛知県立刈谷高等学校	2 名
愛知県立津島高等学校	3 名
愛知県立一宮高等学校	3 名
愛知県立明和高等学校	2 名
愛知県総合教育センター研修部企画研修室	1 名
愛知県政策企画局国際課	1 名

【訪問地】

インディアナ州

2. 日程

1/25(土)	【到着】
1/26(日)	【オリエンテーション】 【視察】 インディアナポリス美術館 【視察】 インディアナポリス公共図書館
1/27(月)	【表敬訪問】 インディアナ経済開発公社 【表敬訪問】 インディアナ州議会上院議長 【視察】 トヨタ・マテリアル・ハンドリング社
1/28(火)	【学校交流】 ジェファーソン高校
1/29(水)	【視察】 パデュー大学 【ワークショップ（報告会準備）】
1/30(木)	【成果報告会】

	【視察】 インディアナポリス・モーター・スピードウェイ博物館 【視察】 エイテルジョルグ博物館
1/31(金)	【出発】
2/1(土)	【帰国】

3. プログラム記録写真

	
<p>1/26【視察】 インディアナポリス美術館</p>	<p>1/27【表敬訪問】 インディアナ経済開発公社</p>
	
<p>1/27【表敬訪問】 インディアナ州議会上院議長</p>	<p>1/27【視察】 トヨタ・マテリアル・ハンドリング社</p>
	
<p>1/28【学校交流】 ジェファーソン高校</p>	<p>1/29【ワークショップ（報告会準備）】</p>

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 一番印象に残ったことは、アメリカには寄付文化が発達し、広がっているということです。ジェファーソン高校のシアターは卒業生の寄付によって作られていると知りました。卒業生がそんな大きな寄付をしていることには本当に感心しました。また、日本の学校にはないような、銀行、カフェなどもあり、生徒がそこで職業の訓練ができると知り、とてもよい環境で学ぶことができていると思いました。特に、高校までが義務教育なので、そのように寄付によって恩恵を受けた生徒やよい環境で育った生徒が、社会に出たときに寄付をするという良いスパイラルができているのだと思います。また、学校では日本にないような自由に発言できる雰囲気が出ていて、そうしたことによる自主性や積極性が節約しがちな日本人との差になるのではないかと思います。

◆ 今回の訪問で多くの場所を訪れ多くのことを学ぶことが出来ました。現地を訪れるプログラムはどれも印象的でしたが、その中でもまとめのプレゼンテーションを作ったワークショップが最も印象的です。メンバーの中でお互いに気づいたことを発表していると異なる意見や考えに気付くことができ、個々のプログラムを多くの視点から見ることができました。意見や考えをぶつけていくと、プログラムの経験がより濃いものになっていくのを感じました。ジェファーソン高校の日本語クラブの人々との会話は面白かったです。互いの文化を知りあうと親近感がわいてきます。

◆ 日本の産業（車など）が世界規模であることを知りました。今回私たちはトヨタのフォークリフト工場に見学に行きました。そこで、アメリカ中にトヨタのディーラーがたくさんあること、アメリカのほかの企業の売上げが伸び悩む中、トヨタはどんどん売上げが上がっていることなどを知りました。トヨタの他にもスバルやホンダの会社・工場がインディアナにはあるそうです。街中でも、スバルやホンダの車を何度も見ました。1週間アメリカで過ごしてみて、いろんな場面で日本製、Made in Japanの良さを感じました。教育の制度や施設については、私たちが目の当たりにしたようにアメリカの方が優れていると思いましたが、もの作りにおいては日本が世界一だと改めて思いました。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 学校交流参加学生

私は日本の生徒たちが行ったすべての発表を楽しむことができ、今まで知らなかった多くのことを学びました。私が特に関心を持ったのは、日本の生徒たちが紹介してくれたとても美味しそうな食べ物のことです。日本の生徒たちは英語が上手だったので彼らのことをよく理解できました。

◆ 学校交流参加学生

私は、日本の高校生たちが自信を持って「お茶」や「お城」の話題を練り上げ紹介したことに感銘を受けました。今回の交流に最初から最後までよい印象を持ちました。彼らの発表は素晴らしく、また細部にわたり私たちの知識を深め、広げることに役立ちました。日本の文化も非常に優れていると思いました。

◆ 学校交流参加学生

日本の高校生たちは、日本の紹介などを上手に行い、英語も上手でした。私は彼らからたくさんの興味深いことを学ぶことができました。

6. 参加者の対外発信

 <p>Liked by kaorini1727 and 99 others kono__english__0128 The fifth day, we visited Purdue University!! It was so big and like a city! I hope I can go to University in abroad soon! That night was the time to prepare for the presentation! Our team always lost at Rock Paper Scissors, so always the term is last! Our official poses is "third peace"❤️ #kakehashiproject #ipurdueuniversity #indiana #toyonashi #third #peace 23 hours ago</p>	 <p>okishi_0911他が「いいね！」しました albally_610 Kakehashi Project Day6 Today we tell our discovering to JASI. We found a lot of differences between Indianapolis and Japan! Then we went to Kiss The Bricks. The winner kiss on the floor (see the pic.3, they are my friends) Also we visited the Eiteljorg Museum. We learned a lot!</p>
<p>学校交流についての発信（Instagram） 第5日目です。私たちはパデュー大学へ行きました。とても大きな大学でまるで一つの街でした。私も留学してみたいです。夜は明日のプレゼンテーションの準備を行いました。私たちのチームはいつもじゃんけんに負けるので、いつも発表は最後です。</p>	<p>カケハシ・プロジェクトについての発信（Instagram） 今日は成果報告会で、インディアナ日米協会で、この滞在中「発見した」たくさんについて発表しました。その後、「Kiss the Bricks」に行きました。インディ 500の勝者がキスをするレンガ敷きの場所です。エイテルジョルグ博物館にも行きました。たくさんを学ぶことができました。</p>

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

<p>Action Plan</p> 	<p>OUR PLAN IS...</p> <p>Encouragement of Evolution in English Education</p> 
<p>アクション・プランの発表 1 アメリカでは寄付の文化が社会に根付いていることに驚きました。そのおかげで公立図書館や学校でさえ充実した施設やプログ</p>	<p>アクション・プランの発表 2 アメリカの学校には日本と比較して生徒に自由がありました。英語教育も同じです。テスト中心の英語教育では、ネイティブの話</p>

<p>ラムが提供されていました。帰国後は SNS や発表会などを通じて日本における寄付文化の向上に努めたいと思います。</p>	<p>スピードについて行けないことを実感しました。帰国後は、学校や生徒たちに私たちの体験を伝え英語教育の改善を目指します。</p>
<div style="text-align: center;"> <h3>Action plan</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●making a presentation ●going to give the hand out to graduate's association ●putting our report in newspapers ●handing out our report to government office </div>	
<p>アクション・プランの発表 3</p> <p>なぜアメリカ人は素晴らしい製品を発明するのかを考えた時、発想の柔軟性、学校教育も含めた自由に気付きました。工場で働く人たちも仕事をしながらガムを噛んだり、ロリポップを舐めたりしている自由がありました。国が発展するためには人づくりは大切なことだと分かりました。帰国後は、発表会を開いたり、報告書を作って政府や同窓会などに配布したり、新聞に投稿したりして私たちの経験と考えを広めたいと思います。</p>	